

2010.2.12「子ども手当は、究極の借金つけ回し」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

自民党が下野した最大の要因は、民主党のマニフェスト、その中でも特に、2万6千円ずつ出すという子ども手当が子どもを持つ多くの家庭で人気を博したためだと言われています。しかし、私はこれこそ究極の借金つけ回し政策だと思います。たしかに民主党の方が言われるように、ヨーロッパの国では子ども手当のようなものを出し、社会で子育てを支える仕組みを持つところもあるようです。しかし、それらのヨーロッパの国では日本と比べて遙かに高い税金を取っています。税金で社会からそれぞれの負担を頂き、その頂いた負担を子どもを育てるために使う。これでこそ社会全体で子どもを育てるということになりますが、日本で民主党がやっている政策はどうなのでしょう。

税金で子ども手当を工面しているのかと言えばそうではなく、全て借金によって子ども手当の財源に当てているのです。子どもが借金の裏書きをし、そのお金を親がパチンコに使おうが、遊興に使おうが、一切分かりません。それ以上に、子ども自体が借金を返すのですから、子どもをだしにした借金のつけ回しそのものであると言わざるを得ません。これでは財政が破綻してしまいます。それだけでなく、道徳上、モラルに悖る話になります。社会全体で子どもを支えるという理念とは裏腹に、親が全く負担をせずに子どもがその負担をするということですから、子どもたちはたまったものではありません。子どもの名義で借金をして親がその借金で自分達の生活や楽しみに当てるとは、モラル的に決して褒められたものではありません。

このように、民主党の政策は、見かけ上は有権者の心を惹き、一見すると理屈も適っているようですが、その中身をじっくり見てみるとモラルに悖り、財政が破綻するようなものが非常に多いのです。

これからもそうした民主党の政策の数々の問題点を皆様方にお示しをしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしく御支援お願いします。ありがとうございました。